

【古今著聞集】

【】(定茂といふ者ありけり)

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

定茂さだむねといふ者あり けり。ある人の供に有馬の湯へ行くとして、むかばきを人に借りたりけるに、一懸けへ左右一對貸したりけるを見て、「二つまで貸し たる、過分なり」とて、片方を返してけり。その暁になりて、かた皮に左右の足を入れて馬に乗らんとしけるに、なじかは乗られんへどつして乗れよつか。合ひに合ひたる下人へよくお似合いの召し使いありて、おし乗せけれども、かなはず。かく 乗りわづらふほどに、人見あひて、「あれはいかに」と 言ひ笑ひけるをり、初めてさとりにけるをこがまし さへおろかさよ。

(古今著聞集)

問一 「けり」・「たる」は共に口語文法の助動詞「た」に相当するが、その意味・用法として最も適当なものを次の中からそれぞれ選べ。

ア 過去 イ 断定 ウ 完了 エ 存続 オ 希望

問二 「かなはず」の意味として最も適当なものを次のア～ウから選べ。

ア 定茂は乗ることができない。

イ 定茂の心は少しも晴れない。

ウ 定茂の思つ方向に進まない。

問三 「乗りわづらふ」・「言ひ笑ひけるをり」を現代仮名遣いに改め、すべて平仮名で書け。

問四 「初めておとりにはる」とは、どのようないことをおぼわしたのか。次の文の空欄に適切な言葉を書け。
むかばきは「 」と云ひしよ。

(兵庫県)

「解答」

問一 ア エ

問二 ア

問三 のりわずらう いわらけけるおじ

問四 左右一対で用いるものだ